

## 平成 22 年度レジリアンス研究会要旨

### 第 30 回レジリアンス研究会

日時：2010 年 4 月 10 日（土）16:00-17:30

場所：講演室

タイトル：生態資源の回復からみた生業の営み  
—セネガルのセレール社会の事例—

講演者：平井 将公，京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究院

#### [要旨]

サハラ砂漠南縁の西アフリカのサバンナ帯には、人口密度が数百人/km<sup>2</sup>にもおよぶ人口稠密な農村地域が多い。本発表では、これらの地域に共通する生業上の特徴である「集約的な農業」と「精緻な資源利用」に着目し、それらがいかなる技術的・制度的革新のもとに展開し、また近年の社会経済環境の変化を受けてどのように変容しているかについて、セネガルのセレール社会を事例として考察する。とくに、セレールの人々が生業の要として長年にわたって利用してきたマメ科高木の *Faidherbia albida* に焦点をあて、その回復について生業との関連から詳しく説明する。

### 第 44 回地球研セミナー（第 31 回レジリアンス研究会）

日時：2010 年 6 月 17 日（木）13:30-15:00

場所：講演室

タイトル：ザンビアの食料安全保障、気候変動、土地利用：小規模農村世帯の脆弱性とレジリアンスのための空間分析とモデル 発表者—

講演者：Dr. Tom Evans, 総合地球環境学研究所招へい外国人研究員 Department of Geography, Indiana University, Indiana, USA

使用言語：英語

#### [要旨]

ザンビアの小規模農家は生活を脅かすさまざまなショックにさらされている。多くの小農は直接あるいは間接的に地域レベルでの穀物生産に従事しているため、特に気候変動は福祉と食料安全保障への脅威となっている。小農の気候変動に対する脆弱性を評価する際には、スケールに依存する関係を考慮しなければならない。このセミナーでは、多重空間スケールでの食料安全保障と小農レジリアンスを分析する手法を報告する。特に、世帯、コミュニティ、地域レベルでのレジリアンスを明確にする概念的アプローチを議論する。2007 年に収集された世帯調査データからの結果を衛星データからの土地利用データと統合し、異なる空間スケールでの小農の脆弱性を評価する。将来的な気候の変動による小農

の脆弱性を研究するメカニズムとしてエージェントベースモデル手法が示される。この手法は小農のレジリエンスを空間的に見る統合的重層アプローチの一部として提示される。

### **第 32 回レジリエンス研究会**

日時：10月22日（金）16:00-17:30

場所：地球研講演室

タイトル：用水路灌漑農業の洪水に対する脆弱性と回復能力：パキスタンの事例 発表者—

講演者：黒崎 卓，一橋大学経済研究所教授

使用言語：日本語

#### **[要旨]**

パキスタンの用水路灌漑地域の家計はどのように洪水のリスクに対応しているのか？ この問題を考えるため、本報告ではまず 2001 年 04 年の家計パネルデータを用いて家計レベルの厚生変動を洪水、干ばつ、虫害といったショックに関連付ける。今回の大洪水に対する分析結果の含意をまとめたうえで、前例のない規模の洪水のインパクトに関する今後の研究計画を披露する。